

## 但馬初！ 電気自動車充電スタンド誕生

澤田 忍さん  
(生野町)



加車。私もつくってみたいと思う方は「サトウハチロー電気自動車グループ」澤田モーターズTEL 0796-79-3183 または、ワタキ自動車TEL 0796-22-4155 まで、ご連絡ください。

今春、但馬初の電気自動車充電スタンド「E.V.ステーション」が生野町口銀谷の自動車整備工場に設置されました。充電できるのは、メーカーによて異なる3種類の充電用プラグ型と200ポルト、100ポルトの「コンセント」型の電気自動車、合わせて5つの充電方式に対応し、無料で利用できます。充電場所が少なく、遠出しにくいなど、困っていた人々に朗報となりました。

「E.V.ステーション」を設置した澤田忍さんは、「これから電気自動車の時代が来るだろう」と考え、少しでもはやく知っておきたいという思いが、自分で電気自動車をつくるきっかけとなりました。

昨年話題になった京都議定書で、二酸化炭素などの温暖化ガス排出量の削減計画が出されました。私たちの住む地球の環境を真剣に考え、行動を起こすときがきています。2000年3月の調べによると、電気自動車は全国で約2400台が普及し、現在、生野町では4台の電気自動車が走っています。澤田さんは3年前、兵庫県下の自動車整備会社の有志たちと環境整備グループを立ち上げ、県下でも電気自動車の普及に努めています。

昨年7月、市販のカンニン車を改造し電気自動車をつくりました。完成したばかりの愛車を持って、筑波サーキット東コースでおこなわれた電気自動車の全国大会に出場、みごと完走、入賞しました。また、四国EVラリー「エスディバル2001」にも参加。残念ながら途中でリタイヤしたレグがありましたが、今年こそは全レク完走をとりベンジに燃えています。

「電気自動車への改造は、やる気と時間があれば誰でもできます。と言っても、私がつくったときは試行錯誤の連続で、動いたときは本当にうれしかったですね」

改造車は改造申請を出し、車検を受けて合格すると公道を走ることができます。今年の夏には、手づくり電気自動車グループが発足。電気自動車をつくらせたいと思つメンバーを募集しています。もちろん、澤田さんもメンバーのひとり。みんなが協力しながら一緒に電気自動車がつくれますよ。

「ちよつとしたきっかけで意識が変わりましたね。マイドリングをやめようとか、気づくよつになりました。昨年、生野町でおこなわれた銀山湖ロードレースの先導を排気ガスがでない「カー」でやりました。どこでも行きますから、気軽に声をかけてください。みんなが環境問題に関心を持っている意識の違つ、こんなおもしろい田舎があつてもいいじゃないですか」と今日も電気自動車を「まわち」を行います。

海の見える宿  
**よしおか**

従業員募集中

お気軽にお電話ください。

- 雄大な日本海を望むお部屋。ベランダからも絶景を満喫。
- 展望風呂から枕む夕日をゆっくりと眺めてください。
- 浜でとれた新鮮な旬の食材を豪快にどうぞ。

海の見える宿  
**よしおか**

〒669-6124 兵庫県城崎温泉 気比の浜 TEL.0796-28-2614 FAX.0796-28-2566



# まつり 伝説

## 宝 暦年間より続く火伏せの祭礼「竹田松明祭」 大松明の火焰が真夏の夜空を焦がし、川面を照らす。

高さ7メートルにおよぶ大松明3本に火が入ると、まもなくあたりは火焰の舞台となる。しだいに勢いを増す炎が夜空を照らして燃えさかり、飛び火したかのように川面に揺れて、見物客たちを堪能させる。

和山町・竹田地区で、毎年7月23日におこなわれる「竹田松明祭」は、江戸中期の大 화재に由来する、愛宕神社の火伏せの祭りである。

宝暦12年(1762年)、竹田地区を襲った火災は130戸を消失する大きなものであった。このとき出火元となった中裏町(現在の旭町)の住民が「みほろほしの気持ちと、再びこのような災難にあわないようにとの願いを込めて、翌年から愛宕神社に大松明を奉納し、祭礼をおこなうようになったのが、この祭の起源といわれている。以来240年、旭町が祭りを取り仕切り、現在まで継承している。

当初は、竹田地区にある9つの町内区のうち、旭町区の住民が祭礼当日に愛宕神社の籠堂にこもって祈願し、ほかの8町区が各1基、計8基の大松明を用意して献灯していたが、明治時代の参籠中に多数の病人が出て取りやめとなり、昭和50年頃までは9町

区が各1基、計9基を献灯してきた。昔は各家で薪を使う生活していたため、それを持ち寄って、大松明を作ったそうだが、

電気・ガスを使う生活になるにつれて薪を用意することが難しくなってきた。現在では旭町区が2基、下町区が1基の計3基になっている。大松明に使う木は、立雲峽・桜まつりの準備をかねて、春に朝来山で集め、よく乾燥させておくそうだ。

各地の愛宕神社の祭りは24日が多いそうだが、竹田では過去に雨のせいで祭りが流れたことがあって、一日早い23日にしたというエピソードがあり、この日は不思議に雨が降らないという。

祭り当日、その年の当番2人が朝来山中腹の愛宕神社へ、御神酒とお供物を供えに登り、夕方から円山川の川原で大松明づくりが始まる。

山と積まれた木に縄をかけ、城山向き転がせえ、「朝来山向き転がせえ」のかけ声をきうかけに、30人がかりで転がしながら形を整えしぼり上げる。きつく詰め過ぎると燃えにくい、ゆるいと早く燃えつきる、ほどよい締め加減は、毎年準備を通して若い世代へ



伝えられる。できあがった大松明は直径約1メートル、高さ約7メートル、総重量は数百キログラム。これを起こすのがまた大変、何本も縄をかけて引張り、力を集中させて一気に立ち上げる。

夜7時、かがり火が照らす中、神事がとりおこなわれ、7時30分、いよいよ対岸の大松明に点火。

最近はこの美しい火の祭りを見物しようと思うから訪れる人も増えてきた。地元では、珍しい祭りの伝統を守り、できれば減ってしまった大松明の数を復活させて、さらに盛り上げたという願っている。

協力：竹田旭町区長 上山千城さん

竹田旭町 若林誠治さん

この夏はゆかたでおしゃれに



いつの代も...

きものことば  
 夏のサマシケイタイ  
 ●着付け教室 ●きものマナー教室  
 ●きものトータルコーディネート  
 豊岡市福田1887-1 電話 24-9239  
 フリーダイヤル 0120-529-008